

第1回みやぎ観光振興会議大崎圏域会議

【日時】令和7年9月30日（火）午後2時から午後3時40分まで

【場所】グラウンド平成 2階 孔雀の間

【委員からの主な意見】

1. 宿泊税活用施策案について

（1）施策1 戦略的な観光地域づくり

（みやぎ大崎観光公社 阿部委員）

- 一つは、他圏域との情報共有による戦略的な事業選択について。「オールラウンドな観光地」を目指すのであれば、各地域が同じことをやるのではなく、それぞれのポテンシャルを生かし、特色を出していく必要がある。そのためには、このような会議の場で、他の圏域がどのような事業展開を考えているのかを共有してほしい。そうすることで、「うちは競争するのではなく、そこを補完しよう」という、宮城県全体を見据えた事業選択が可能になるのではないかと。
- もう一つは、既存の観光資源の深掘りについて。新しいものを作るだけでなく、例えば鳴子峡のような、このエリアの中心的な観光資源（キラーコンテンツ）であるが、そこが抱える二次交通といった課題の解決に、集中的・戦略的に事業展開することも必要ではないか。宮城県が本気で他県と競争していくのであれば、何か一つに絞って磨き上げるような、大胆な事業があっても良いと思う。

（大崎市 中鉢委員）

- 施策の方向性には賛同する。今後は、事業主体となる市町等と連携し、具体的な取組内容を詰めていくことが重要になるが、その制度設計に向けた協議のスケジュールについて伺いたい。

【事務局からの回答を受けて】

- 仕方がない部分もあり、県全体のスケジュール感は理解するが、地域によっては来年度早々にも対応が必要な喫緊の課題も存在する。例えば、紅葉バスが運行されない場合の代替交通の手配など、迅速な対応が求められる事業に対し、宿泊税を有効に活用できるよう、なるべく早めに具体的な協議を開始していただきたい。

（2）施策2 周遊性向上のための二次交通対策

（プラザホテル古川 千葉委員）

- 当ホテルでもレンタサイクルを数台貸し出しており、お客様によく利用されている。社内では「もう少し長い距離も走れるように、電動アシスト付きがあっても良い」という話も出ており、ラストワンマイル対策として電動アシスト自転車の導入を支援いただければ、宿泊施設も導入しやすくなると感じる。

（でんえん土田畑村 山本委員）

- 大勢の客を運ぶなら大型バスになることについてスタッフと話したが、土日は運行していない町民バスやスクールバスを使えないだろうかという話の際に、スタッフが大型免許を取ろうかと言っていた。しかし、免許取得に30万円ぐらいかかるということで、二次交通に関わる人材限定で大型免許取得費用の補助というのも一助になると考えている。

（池月道の駅 佐々木委員）

- やはり二次交通の強化は重要だと肌で感じている。先日、バス旅のテレビ番組で我々の道の駅が紹介された。そういったメディアの力は影響力が大きく、放送後、実際に番組を見て足を運んでくださるお客様もいる。しかし、その際にお客様が抱くイメージと、実際の二次交通の利便性との間には、大きなギャップが生じる可能性がある。コンテンツ強化も重要だが、そこから次にどう移動するかという二次交通の問題は、それ以上に重要ではないか。
- 実際、当道の駅を訪れるお客様の9割は車だが、中には次にどこへ行くか決めていない方も多く、施設内のパンフレット等で情報収集されている。道の駅のような場所でのPRも、周遊を促す上で非常に有効だと感じた。

（３）施策３ 快適な旅行環境のための受入環境整備

（加美町 阿部委員）

- SNSによる情報発信により、役場にはクマに関する問合せがある。農林の方では鳥獣被害に対する補助金が充実しているものの、やくらいガーデンやパークゴルフ場を電気柵などで対策するとき、観光の方ではない状況なので、宿泊税を活用した補助事業で鳥獣被害の課題解決のための事業を今後検討したい。

（４）施策４ 効果的なプロモーションの展開

（加美町振興公社 小杉委員）

- 今年の夏に丸森町の齋理幻夜でみやぎポイント1500ポイントが付与されるということにしたが非常に人が集まっていた。鳴子のこけし大会の際にもポイントが付与し相当の人が集まった感じがする。そういう全県の周遊を促すランキング制度のような仕組みがあると面白いし、それにポイントがつくとモチベーションが高まるかと思う。全県的だったり大崎圏域だったりで人を動かす仕掛けを考えてもらいたい。

（JR古川駅 堀江委員）

- メディア活用の重要性である。地元出身のタレントさんのテレビ出演が大きな誘客につながった事例もあるように、テレビ等のメディアが持つ影響力は非常に大きい。こうしたメディア露出も積極的に検討していただきたい。
- 首都圏へのPR強化である。大崎圏域は東京から2時間弱で来られるという利便性が強みだが、その魅力が十分に伝わっていない。東京駅の観光案内所ですら、東北の情報に疎く、観光客を南へ誘導しがちだという現実がある。首都圏の案内所なども含め、「オーバートーリズムの状態になく自然が豊か」といった東北ならではの魅力を、もっと力強くPRしていくべきだ。

2. 圏域での施策活用イメージ

(1) 施策1 戦略的な観光地域づくり

(加美町振興公社 小杉委員)

- 鳴子を一点集中して磨く施策による投資の波及効果を作るためには、例えば、鳴子に来た客に加美町のやくらいガーデンを知ってもらうことで、鳴子の集客力が高まる。涌谷の笹岳や南郷の施設、蕪栗沼にも行くといった動きを考えれば、豊富なコンテンツになるので、そういった結び付きを作り、先ほど話した観光ポイントで、周遊に行けば行くほどポイントを付けるといったやり方も良いと思う。横軸の視点を持ってもらえると非常にありがたい。

(みやぎ大崎観光公社 阿部委員)

- フランスのJ N T O所長のセミナーで聞いたが、検索キーワードで宮城よりは仙台の方が名前を知られているので、仙台市、宮城県という順だが、3番目が伝統こけし、4番目は温泉だという。これがインドネシアでは、宮城県内の1番がやくらいガーデン。既存でも魅力的なコンテンツがあるので、それをどう情報発信するかを考え、鳴子の紅葉のことも二次交通の問題の課題をまず解決しなければならない。
- このエリアにはやくらいガーデンなどいいものがあり、インバウンド市場の中では非常にポテンシャルが高いので、しっかり考えたうえでの事業展開をしてもらいたい。

(2) 施策2 周遊性向上のための二次交通対策

(鳴子温泉郷観光協会 菊地委員代理)

- 鳴子温泉の二次交通は厳しい状況に直面している。紅葉バスは運転手不足から来年の運行が危ぶまれているほか、鳴子ー仙台間の高速バスも10月から運休となった。陸羽東線も部分運休が続く中、このままでは車以外で来られたお客様、特に高齢者の方の移動手段が著しく制限されてしまう。これは観光地として非常に大きな課題である。また、レンタサイクルは坂の多い鳴子では電動アシスト付きでなければ実用的ではないが、コストの問題が大きい。以前、実験的に導入した際も、すぐに台数が足りなくなるなど、現実的ではないし、安定的な運営には多くの課題があった。単に導入補助金を出すだけでなく、誰がどのように管理・運営していくのかという仕組みまで含めた、広域的な制度設計を検討していただきたい。

(加美町振興公社 小杉委員)

- 施策の方向性には賛同するが、それをいかに効果的な取り組みに具体化するかが重要である。一つはゲートウェイ機能の強化で、県全体では仙台空港や仙台駅、大崎圏域では古川駅といった玄関口に、単なる観光案内所ではなく、圏域の魅力が「映像」などで視覚的に楽しめ、訪問のきっかけとなるような情報発信場所を設けるべき。そこが季節ごとのイベントや見どころを紹介や、町のキャラクターグッズの販売する「お祭り広場」のような役割を担うことで、圏域全体のサービス向上につながるのではないかな。

(プラザホテル古川 千葉委員)

- ホテルを経営していると、お客様はチェックインして、食事をして、チェックアウトして帰る、というのが基本の流れだが、何か面白いものがあると、そこに注目し、滞在時間を楽しんでいた様子を見掛ける。他の委員の意見にあったが、大崎の素晴らしい景勝地などをまとめた映像コンテンツを県に作成していただき、それを大崎地域のホテルでチェックイン、チェック

アウト時に映して、「近くにはこういうのがあるのか」と思ったり「今回は行けないけど今度またこれを見に来ようか」ということになったりする。例えば、鳴子の紅葉というときに、そこにＱＲコードを付けておけば、様々な情報を得ることができる。参考資料３の“アフター”の状況が作れると思う。

（でんえん土田畑村 山本委員）

- 資料２の８ページのトゥクトゥクは私のイメージどおりの写真が載っており、私たちのスタッフでも、普通免許で運転できお客様を送迎できるので、こういった車両の購入補助があると非常にいいと思う。

（みやぎ大崎観光公社 阿部委員）

- 紅葉はこのエリアでは既存のキラーコンテンツだが、二次交通の課題がある。河北新報記事で東経連の方も話していたが、新しいもののブラッシュアップに限らず、既存観光地の深掘り、今だと二次交通の問題解決策を集中と戦略、選択的な事業展開について３か年計画で事業展開していかなければならない。

（ＪＲ古川駅 堀江委員）

- 近隣地域への情報発信の弱さである。私自身、旅行業に長く携わり、仙台で生まれ育ったが、すぐ隣の大崎圏域にある潟沼や花火大会の存在をこちらに来るまで知らなかった。仙台のような近隣の主要都市に対してすら、地域の魅力が十分に伝わっていない。ＳＮＳなどを活用した情報発信の強化をぜひお願いしたい。